
分身

蒼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

分身

【Nコード】

N6451L

【作者名】

蒼

【あらすじ】

平凡な日常を壊されたとき。
大切なものを奪われたとき。

それは静かに姿を現す。

あとは、この部屋だけだ。

永かった。あいつらを追って国から国へ、いつたい何年渡り歩いたことだろう。幸せな日々を取り戻すために、いつたいいくつの傷を舐めてきただろう。だがそれも終わる。俺は、帰るんだ。

依頼がある。俺のもとへ届いた手紙には、ただそれだけの文字が並んでいた。誰が、何のために。それ以前に、なぜ俺の過去を、居所を知っているのか。疑問はいくらでも湧いてきた。だがその依頼を断ることはできなかった。あいつらは俺の大事なものを全て手中に収めた上で、話を持ちかけてきやがったのだ。

この稼業から何の枷もなしに手を引くことなんざ、出来っこなかった。俺が甘い夢を見ていたに過ぎなかったのだ。だから俺は、土の中から相棒を引きずりだした。二度と陽の光を拝むことはなかったはずの、鈍色。

俺はあいつらの指定した仕事をこなした。汚い仕事ではあったが、難しいモノではなかった。俺はわざわざ探しだされた意味を掴みかねたが、当然のように帰途に就いた。そして見慣れた景色の中に、地獄絵図を、見た。

割られた瓶、崩された土壁。折り重なった村人の胸には穴が開き。黄金の麦が迷彩でも施されたかのように、炎に紛れる。立ち尽くす暇はなかった。何か爆ぜる音に重ねて。男たちが躍りかかってきた。

そつとノブに手をかける。逸る気持ちを抑え込みながら、俺は相棒に口づけた。弾は六発。姉さんの、義兄さんの、姪たちのところに俺は行けない。だけど、あいつらをそつちには行かせない。相棒、お前は最高の銃さ。これで、最後だ。

おい、通報があつたから来てはみたが、これはいったい何なんだ。悪党の事務所の丸焦げなんて、見たことがねえ。しかも札付きが一匹残らずあの世行きだ？署長が泣いて喜ぶぜ。だが俺達も仕事が減るんじゃないか。こいつらが手駒を始末することも無くなるし、な。

ある村に、一人の女が住むという。髪を短く切り詰めたその姿は、まるで戦場に赴く戦士であるかのような。嘘かどうかは定かでないが、長いスカートの下、鈍く輝く銃が一丁、常に吊つてあるという。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6451/>

分身

2010年10月20日20時01分発行